

2023.10
Vol.123

にいだがわつうしん 新田川通信

発行元：(有)佐藤建業

南相馬市原町区北新田字広田170

Tel : (0244) 22-7619

Mail : info@sato-kengyo.jp

<https://www.sato-kengyo.jp>



今 新田川では
山津見(やまつみ)神社



北川

鳥居

ここは大原、社地神地区の県道13号線に、つかず離れずに流れる新田川の支流「北川」です。

9月8日の大雨で水かさは25cmくらいで、山の伏流水が浸み出しているからでしょうか、川底がすっきりと見えます。

この川の南岸に向いて架かる苔むす橋を渡ったその先に鳥居があり、石段を登ると山津見神社が御座します。

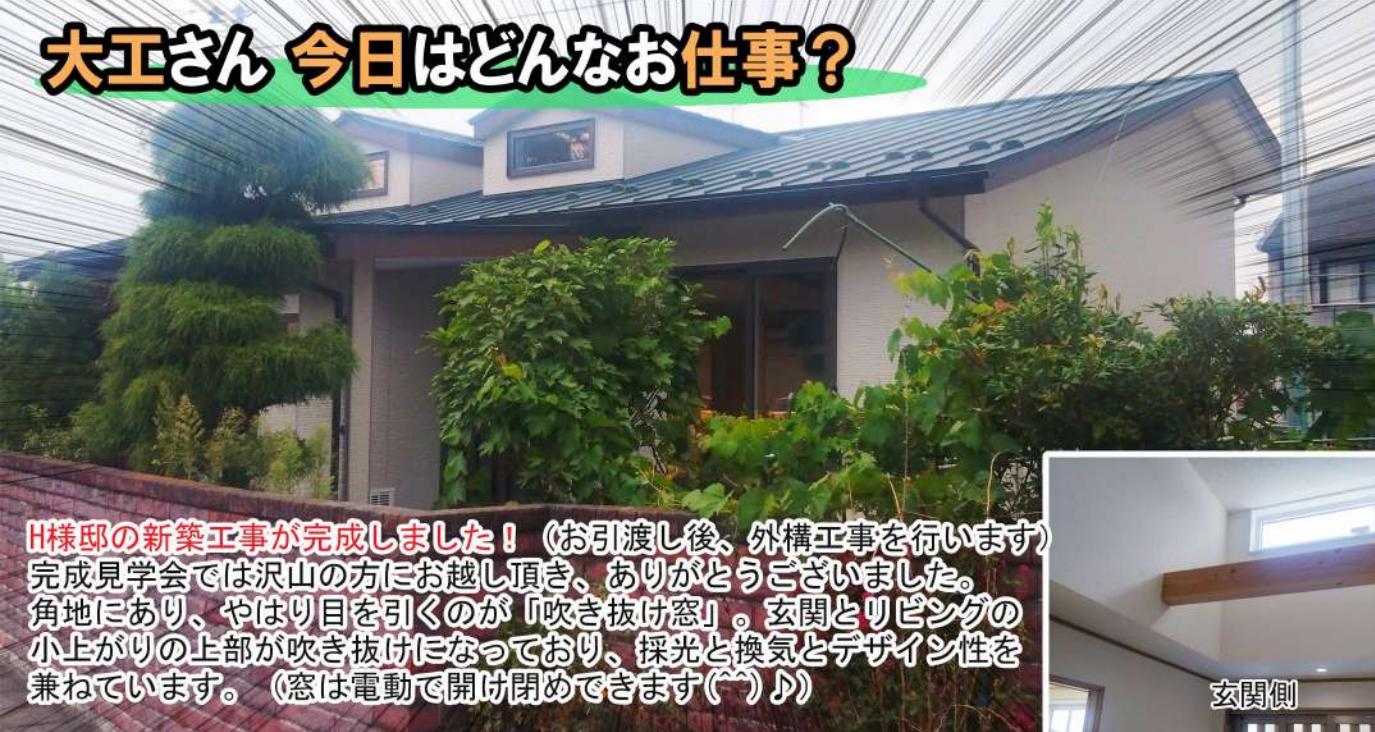
うっそうとした林に囲まれてますが、木漏れ日を浴びて明るく、この地区的安寧と県道を往来する車の安全を見守っているものと思われます。

平成17年に「雨屋新築」と記されています。足元にはかわいい白い花が咲いていました。（踏まないようにしないとね…）

ちなみに、さらに県道をさかのぼった所にある「沢見橋」の下を流れる川は「上真野川」で鹿島に流れ、下流で「真野川」に合流します。



大工さん 今日はどんなお仕事?



↑リビングの南側に6帖の小上がりを作りました。洋室の中に畳もあって、くつろぐのに最適です！
(小上がりの下は収納になってます。)

H様邸の新築工事が完成しました！（お引渡し後、外構工事を行います）
完成見学会では沢山の方にお越し頂き、ありがとうございました。
角地にあり、やはり目を引くのが「吹き抜け窓」。玄関とリビングの
小上がりの上部が吹き抜けになっており、採光と換気とデザイン性を
兼ねています。（窓は電動で開け閉めできます(^_^)♪）



玄関側

リビング側

《社員紹介コーナー》

施工管理・営業・技術を担当しています、若盛です。

『ワカモリスマイル』がトレードマーク！

明るい性格で、周りを笑いの渦に巻き込んでしまいます。



お客様の満足のため、お打ち合わせは綿密に行います。
ご希望は何なりとお申し出ください。

普段は
・テレビはあまり見ない
・お酒はあまり飲まない
・オムライスが大好き

休みの日は
・旅行をしたいなあ
・御朱印集めをしたい
・キャンプが楽しい

仕事仲間とチームワークが良く、
楽しく仕事をこなしています。



令和5年度 南相馬市事業者支援・市民生活応援事業

大抽選 キャンペーン

南相馬市内参加店で3種類のシールを集めて
のまたん商品券に応募しよう！



応募期間：令和5年 9月15日～10月31日（必着）

佐藤建業では緑色の応募シールがもらえます！

詳しくは南相馬市のホームページをご確認ください。

《大工さんのアイテム》 軽トラック



小さいので小回りがきき、狭いところもスイスイ入って行ける「農道のベンツ」こと軽トラック！！！

佐藤建設でも資材を積んで毎日出動しています。

(会社のロゴが入った軽トラで南相馬の街中を走っています)

積載量は350kg。木材を運んだり、土砂や砂利を運んだり、ゴミを運んだり…建築や農業だけでなく、ご自宅でも活躍してるのでないでしょうか？

オートマ車もあるにはありますが、基本はマニュアルなのでMT免許は必須です。

軽自動車の規格は日本にしかないのですが、最近ではアメリカでも小さな可愛いトラックとして人気があります。向こうでは「ミニトラック」「ライトトラック」「スマートトラック」等と呼ばれるようです。尚、「軽トラ」で英語翻訳をかけてみたところ…「Light Tiger(ライトタイガー)」と訳されてしまったのはここだけの秘密…(*_*)

じつは…

佐藤建設で使用している軽トラは、ダンプの機能が付いている「軽ダンプ」です。

なので、土砂を載せてもダンプアップすれば御覧の通り、一瞬で荷を降ろせます。↓



毎日資材を運ぶ、縁の下の力持ち！大きな荷物はダンプカーに任せて、普段はこちらが大活躍！最近はお洒落な色の軽トラも出てますね。

ええ
つづ
ほほ

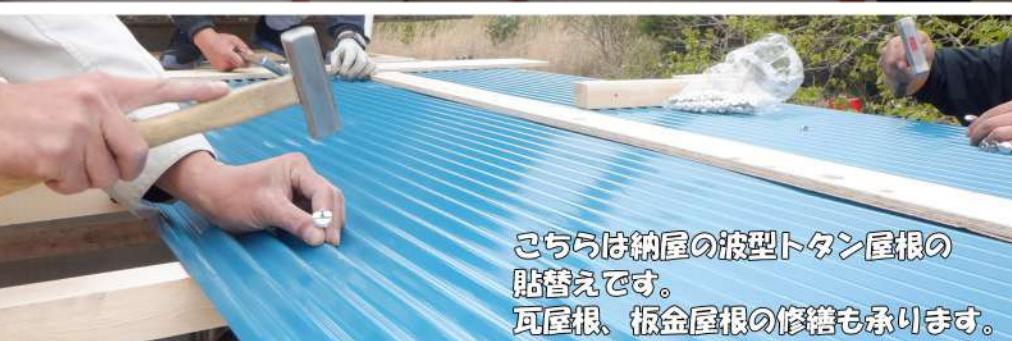
こんな工事ができますよ～！その2

天井・屋根の修繕



傷んだ天井の貼替え状況です。

クロス仕上げや、和室の天井板仕上げなど、色々対応できます。



こちらは納屋の波型トタン屋根の貼替えです。

瓦屋根、板金屋根の修繕も承ります。

解体工事



こちらは木造家屋の解体工事です。
コンクリート造も解体可能です。

今回も佐藤建設ができる工事の例を挙げてみました。
お家のことなら何でも可能なので、お気軽にご相談下さい！
お問い合わせは佐藤建設 [0244-22-7619](tel:0244-22-7619) まで♪

稻刈りも終盤ですね（終わってるかな…？）

そこで、稻を守って活躍してきた「案山子（かかし）」の労をねぎらって、案山子様のお話をどうぞ。

かがしの神さん

(新潟県)



あるところに、九兵衛（きゅうべえ）とかか（嫁さん）が住んでいた。

ある年、稻の実りもよく、秋は豊作と思われたが、スズメたちがついばんで、お米を食べてしまうのだった。

スズメを追い払っても追い払ってもきりがない。

そこで九兵衛が本家に相談に行くと、かがし様（カカシ）を作ってはどうかという話になった。

早速、九兵衛は夜なべしてかがし様を三体お作りして、田んぼの三ヵ所に立てた。「年の瀬にはご馳走しますので、田の米を守ってください。」と

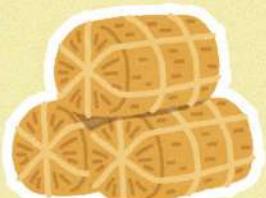
お願いすると、かがし様は歌を唄いながらスズメを追うてくれた。

その甲斐あって、その年は上作となつた。



やがて年の瀬となり、かかに言ってかがし様への御礼の膳を、床の間に三つ用意させた。すると、器量の良い（可愛い）娘が高窓から顔を出し、三人が床の間の膳に座った。

美しい三人の娘（かがし様）を見たかかは、九兵衛の隠し女（愛人）と勘違いして怒り出し、激しい夫婦喧嘩が始まった。この夫婦喧嘩を見た三人の娘たちは、慌てて高窓から一人、二人と逃げて行った。これに九兵衛がハッと気づいて、三人目を取り押させて、外に出さないようにした。



夜も明けて元旦の朝となり、本家の爺さんが九兵衛の家に寄ると、稗俵（ひえだわら）一俵をしっかりと抱いた九兵衛の姿があった。「これはどうしたことだ？」と尋ねると、「これこれこうだ」と九兵衛が語って聞かせた。

本家の爺さんは「せっかく福の神が来たというのに、かかが心得違いをしたばかりに、金三俵になるところが稗俵一俵になっただな。」と言った。この事があつてから、九兵衛は毎年の年の瀬には、かがし様の数だけお膳を用意して、御礼をしたそうな。